

「2020年インドネシア大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部2回生 漆原 基志

これは、私の初めての飛行機搭乗経験、初めての海外渡航経験の報告である。本事業の期間は二週間と、海外初心者にはいささか長めである。しかし私は、これまでの内向的な自分を変える契機にしたいと考え、参加を決断した。海外渡航経験豊富な他の参加者とは少し違った報告書になるかもしれないが、来年度以降、この事業に参加しようか迷っている方の背中を押すことになるとも考え、ありのままを書こうと思う。

さて当然のことであるが、日本国内にいる限り、日本人は圧倒的な多数派である。よって、国内の外国人に対して、我々は『少数派で異質なもの』という視線を向けてしまいがちである。しかしこれは、日本でしか通用しない論理であり、『日本人とそれ以外(外国人)』という図式も、所詮、数の問題でしかない。出発当日、空港に近づくにつれ、外国籍の人が少しずつ増える。圧倒的多数派の土台が崩れていく中で、私は得体の知れない不安に襲われた。荷物を預け、ゲートをくぐり、搭乗し、いよいよ国籍もわからない人々に囲まれ席に着いた時、私はこれまでにないほど『個』を意識した。『周りがどうかじゃねえ。お前は、何がしたいんだ』。多くの背中が無言で語りかけてくるようで、私は、この感覚を得られただけでも大きな収穫であった。

現地に着いてからは、初海外でよくあるトラブルを一通り経験した。頭痛、腹痛、体調不良、現金不足、ホテルのカードキー紛失、携帯電話の通信契約の失敗など、多くのことに困らされ、苦勞した。周囲の仲間たちに助けられ、なんとか二週間を生き抜くことができたが、あらゆる地雷を踏み、ここまでボコボコにされると、もうどうにでもなれという気分になる。私の中で海外渡航のハードルは大きく下がり、スマホ、パスポート、現金、漢方薬さえあれば生きていけると、度胸がついた。

現地での学習、生活について記す。基本的に午前中はインドネシア語の講習であった。語学に苦手意識がある私はかなりこずり、最後まで悩まされた。周囲のサポートがなければ、私は何も分からずに座っていただけの時間になっていたと思う。また午後は、バティック、ガムランといった伝統文化の体験や、ジャカルタ市内の観光に時間を費やした。午前中に習得した稚拙なインドネシア語を実際に試しては、語学力不足を実感していた。

インドネシアでの日本の存在感は、予想以上のものがある。日本における英語のように、インドネシアで日本語は『よく分からないがカッコいい』とみなされている一面があるようで、ファッションの一部としてカタカナがプリントされたTシャツが売られていた。また、ショッピングモールのフードコートでは、サンバルなどで独自の味付けをされた日本食が提供され、行列ができていた。

またこの例に限らず、インドネシアの食文化は独特であった。インドネシアのマクドナルドではフライドチキンが売られていると知った時は、驚いた。しかも横にはKFCがあり、そちらではナシ(白米)とフライドチキンのセットメニューが大人気だというのである。現地の屋台では揚げ物とナシがよく売られているが、その影響が色濃く表れていると感じた。文化の輸出、輸入、発展の一端である。

このような充実した二週間の活動では、インドネシア大学日本語学科の方々に、あらゆる面で非常にお世話になった。自分たちの授業も忙しい中、インドネシアに慣れない我々の面倒をつきっきりで見守り、深く、深く感謝している。彼らは私の慣れないインドネシア語にも耳を傾け、親切に対応してくれた。英語、日本語、インドネシア語がごちゃ混ぜの雑談の中でも、なんとか興味のある話題や共通項を見つけ、丁寧に発展させれば、誰とでも仲良くなれる。よく知りもせずに距離を取ってしまうのは、もったいないことなのだと実感した。

また、彼らはフレンドリーである一方、向学心も旺盛である。名門大学の日本語学科なので、日本への造詣が極めて深い。プレゼン中や講義中でも、我々が日常の一部として意識もしない日本社会の一側面に目をつけ、積極的に話し合い、流暢な日本語で鋭い質問を投げかけてくる。ひょっとして私は、日本についての知識、勉学への意欲、双方で大きく水をあけられているのではないかと、内省を促された。これも、インドネシアで得た貴重な経験、気づきの一つである。

さて、最後にお伝えしたいことがある。本報告書はネットで公開されるようである。これを読んでいる方がもし、海外が不安で、参加するか迷っている方ならば、是非、エントリーしてみたい。私自身、昨年参加した友人に強引に参加を促され、本事業に参加した。そして、そんないい加減な人間でもなんとかなり、結果的に、忘れられない経験と、新たな交友関係を得た。世の中、やってみなければ分からないことが多くあると実感している。萎縮せず、果敢に海外へチャレンジして頂きたい。